

評価委員会総合評価

研究課題名：台風強度に影響する外的要因に関する研究

評価委員

委員長：田中正之

委員：岩崎俊樹、木村富士男、佐藤 薫、藤吉康志、渡邊朝生

評価年月日：平成 25 年 10 月 21 日

1. 総合評価

- ☐ 非常に優れた研究であった。
- ☒ 優れた研究であった。
- ☐ 研究を実施した意義はあった。
- ☐ 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、台風の進路予報の改善と、台風の強度（強風、強雨）の地域に即した、詳細な防災情報を提供するための裏付けとなる、台風強度推定法の開発と台風強度に影響する外的要因の解明を目的として実施したものである。

本研究により、衛星マイクロ波探査計データによる強度推定手法が新たに開発され、台風の最適観測法として航空機観測の有効性が示された。また、数値予報モデルの予測精度の向上につながる感度解析技術や台風の強度・構造変化に及ぼす大気・海洋環境場の影響等に関する新たな知見が得られた。

特に、アンサンブル予報による感度解析から、観測すべき地域を絞り込める可能性を示したことは、将来の観測システムの設計に示唆を与えるものである。また、雲解像モデルを利用した台風強度の再現実験も精力的に行われ、将来の台風の強度予測の基礎としての有益な知見が得られた。また、研究成果は、台風解析の現場に還元されるなど、一定の効果を挙げた。

以上のことから、本研究は、概ね適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、台風の最適観測法については、まだ分かり易い実現方策の提言には至っていない。また、台風の強雨・強風構造の実態と関連する外的要因の解析は十分とは言えないことから、今後も継続して研究を実施するほか、国際貢献の観点からは、日本に接近した台風だけでなく、フィリピン等東南アジア諸国で大きな被害をもたらした熱帯低気圧についても研究対象に加え、更なる研究の推進を期待する。